

東京都水産試験場調査研究要報30

三宅島水産開発事業報告

(Ⅱ)

東水試出版物通刊 NO 150

昭和 37 年 2 月

東京都水産試験場

45.12.24

T. Keda

ま え が き

三宅島水産開発事業の調査も2年目が完了して3年目の事業を着々と実施中である。

35年度の事業成果のうち、5編について一応報告を取まとめたが、主として基礎的な調査報告が多い。

およそ開発事業なるものは先を急ぐあまり基礎的な自然環境、立地海洋条件等、重要であるべき基礎調査がなおざりにされがちであるが、本報告はこの点に主眼を置いて作成したものである。

したがって、開発事業報告書としては目立たぬ基礎的な報告に始終するが、将来すべての面で飛躍的に伸びようとする三宅島水産業の礎石としては、この報告書が充分活用できるものであると云うことを信じてやまない次第である。

昭和37年2月

東京都水産試験場長

鈴木 順

目 次

I	三宅島の軟体動物相(第1報).....	1
II	三宅島の魚類相と漁獲量(第1報).....	19
III	底魚一本釣漁場調査(第2報).....	39
IV	坪田港における定置観測.....	43
V	ひきなわ(曳縄)漁業指導(和歌山県式).....	49

I 三宅島の軟体動物相

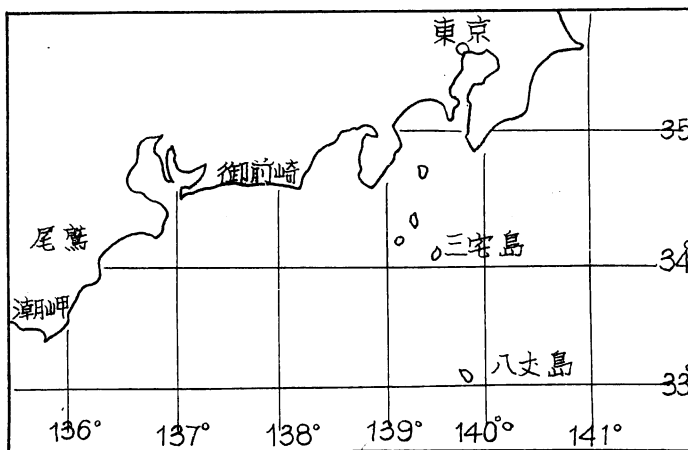
(第 1 報)

三宅島の軟体動物相 (第1報)

およそその地方の海域の実態を明らかにしないでその海域の開発を論じ実行することは無謀なことである。三宅島周辺の海域特に浅海資源の実体を知ることは水産開発上重要であり、浅海(干潮線から漸深帯)生物相の全般を把握することは今後の水産開発上基礎的資料として、最も役に立つことと思う、このような観点より三宅島における海産生物相のうち、軟体動物について、テングサ漁場調査のかたわら2か年間にわたつて(いそ)採集や潜水採集をした。ここに200余種について同定記録することができたので一応その目録をかかげて中間報告とする。

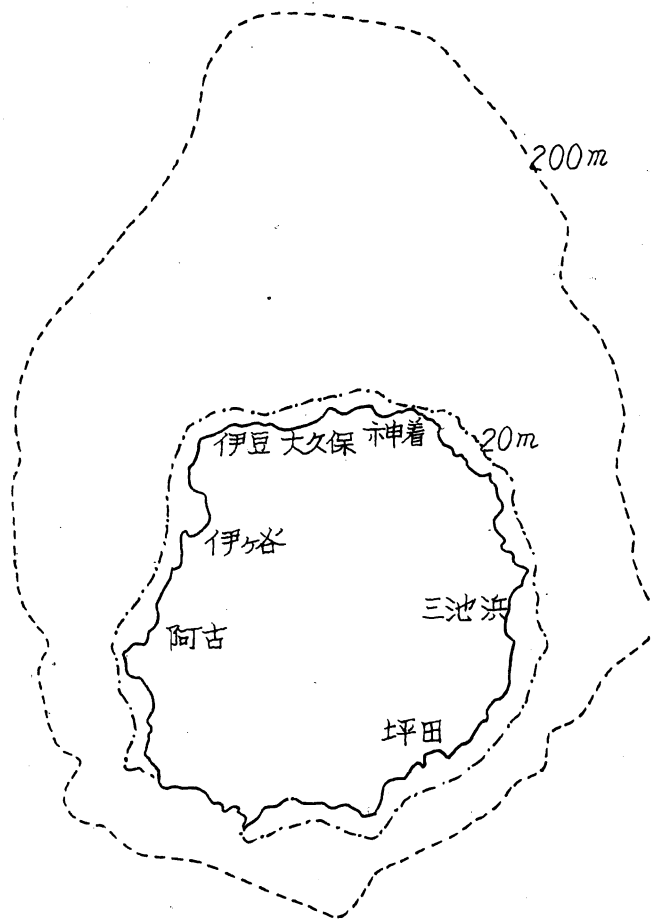
島の位置と海況

東京の南180Kmにあつて、伊豆七島のほぼ中央に位置する。三重県尾鷲市と同緯度にあつて東経139°32'北緯34°05'を中心に南北約10Km、東西約8Kmのほぼ円形をなす。海岸線全長は35.85Kmで200m以浅の大陸棚の面積は121.4平方Km、20m以浅の生物相の最も豊富な水域の面積は14.2平方Kmできわめて狭小である。(図1.2.)



図、1 三宅島の位置

本島は富士火山帯にあり玄武岩質の塩基性熔岩と(ほう)出物との互層より成る複式火山である。従つて海岸線の出入乏しく岩礁にかこまれ砂浜は大久保浜・三池浜位のものである。島には河川がないが海岸の所々に淡水の(ゆう)出個所がある。しかし水量はたい



図、2 三宅島沿岸

したことがないので淡水の影響が生物相におよぼすことは恐らくないと考える。

沿岸水温比重の季節的变化を見ると(表1)最低水温は1月の17.4°Cでそれより次第に高温となり、5月から急に上昇し最高は8月、9月の26.6°Cで10月から急に下降する。年平均水温は22.5°Cである。

比重は最高8月の1.02538・最低1月の1.02316・年平均1.02463で年内を通じて大差なく高(かん)・黒潮流域にあつて沿岸水の影響は全く無いといえよう。

表1 三宅島沿岸水温比重（昭和32～35年平均）

月	1	2	3	4	5	6	7
水温	17.4°C	17.7	18.0	18.4	20.6	22.7	23.3
* 比重	23.16	23.48	23.98	25.38	24.61	25.24	25.09

月	8	9	10	11	12	平均
水温	26.6	26.6	24.6	22.1	19.8	22.5
* 比重	25.11	24.64	24.91	25.23	—	22.57

* 比重は昭和13年を用いた。

軟体動物相の概要

今回採集された標本のうち同定できたものは211種でこれを分類区分すると、ヒザラガイ類5種（2.3%）・腹足類172種（81.5%）・斧足類25種（11.9%）・頭足類5種（2.3%）・後鰓類4種（1.9%）となる。腹足類が極端に多く、斧足類がいちじるしく少ないことは本島のような波荒い岩礁帯を持つ海洋島であるから当然と思われる。頭足類・後鰓類は調査不充分であるので今後の調査によつてかなり種類が増加するであろう。

産業上重要なものは食用種であるサザエ・フクトコブシ・バセウイカ・ヤリイカ等がある。

サザエは昭和12年以前は島の南東岸一帯に分布し、昭和10年には同島より八丈島に439kgを試験移植を試みた。昭和12年の水揚量は5,600kgが記録されている。現在では極端に減少し、テングサ採集のかたわら一夏に1隻20kgもとれば良い。フクトコブシは島の南東岸に特に多くかなりのせい息を見るが自家用に採取するだけで市場へ出荷しないのは惜しい。昭和12年の水揚では2,730kg・昭和34年には3,644kgが水揚されている。バセウイカ、ヤリイカ（方言アカイカ）は産卵に接岸したものを漁獲するが昭和33年には116kgの水揚があつた。

その他装飾用として利用されるホラガイ・オオナルトボラ・ボウシウボラ・イトマキボラ・ヒメイトマキボラ・カバミナン・タカラガイ類があるが大型貝類は自家食用に供している。

分布上興味ある点はスイジガイ・トウカムリ・タイワンバイ・クロチヨウガイの出現である。いずれも本邦における分布の北限に近い。巨大な後鰓類シヤノメアメフラシの分布もまた同様である。

最後に採集に協力していただいた五十嵐正治（静岡県水産試験場伊豆分場長）・塩谷照雄・

荒尾慶彦・ヒザラガイ類の同定は国立科学博物館動物課長故龍 庸博士、一部緻小貝類を同定して下さった地質調査所大山 桂博士の各位に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- 1 山内 謙 1938: 三宅島沿岸調査報告書。
- 2 松本太郎 1942: 栄螺移植試験。伊豆七島水産経営八丈島現業場事業報告、東京府。
- 3 吉良哲明 1960: 原色日本貝類図鑑。保育社。
- 4 波部忠重 1961: 続原色日本貝類図鑑。保育社。

調査担当者

大島分場 調査指導室

技 師 倉 田 洋 二

技 師 三 村 哲 夫

軟体動物目録

Class POLYPLACOPHORA	多板殻綱 (ヒザラガイ類)	
Order CHITONIDA	ヒザラガイ目	
Family Cryptoplacidae	ケムシヒザラガイ科	採集場所
1. <i>Acanthochiton rubrolineatus</i> (Lischke)	ヒメケハダヒザラガイ	坪田
2. <i>A. achates</i> (Gould)	コケハダヒザラガイ	神着、坪田
Family Ischnochitonidae	ウスヒザラガイ科	坪田
3. <i>Ischnochiton boninensis</i> Bergenhayn	ホソウスヒザラガイ	坪田
4. <i>I. comptus</i> (Gould)	ウスヒザラガイ	坪田
Family Chitonidae	ヒザラガイ科	
5. <i>Onithoplax hirase</i> (Pilsbry)	ニシキヒザラガイ	神着
Class GASTROPODA	腹足綱	
Subclass STREPTONEURA	楯神経亜綱	
(Prosobranchia)	(前鰓類)	
Order ARCHAEOGASTROPODA	原始腹足目	
Superfamily Pleurotomariacea	{オキナエビス超科}	
Family Haliotidae	ミミガイ科 (鮑類)	
6. <i>Haliotis</i> (<i>Sulculus</i> ?) <i>gruneri</i> Philippi	フクトコブシ	伊豆・阿古・坪田
(<i>tayloriana</i> Reeve)		
7. <i>H. (Sanhaliotis) varia</i> Linné	イボアナゴ	神着
Family Fissurellidae	スカシガイ科	
8. <i>Machrochisma macroschisma</i> (Dillwyn)	スカシガイ	阿古
Superfamily Patellacea	ツタノハガイ超科	
Family Patellidae	ツタノハガイ科 (ヨメガカサ類)	
9. <i>Penepatella stellaeformis</i> (Reeve)	ツタノハ	神着・伊豆・坪田
10. <i>Cellana toreuma</i> (Reeve)	ヨメガカサ	神着・伊豆・坪田
Family Acmaeidae	ユキノカサ科	
11. <i>Collisella grata</i> (Gould)	カモガイ	

12. <i>C. (Kikukozara) langfordi</i> Habe	キクコザラ	坪田
13. <i>Notoacmea schrencki</i> (Lischke)	アオガイ	坪田
Superfamily Trochacea		ニシキウス超科
Family Trochidae		ニシキウス科
14. <i>Trochus maculatus</i> Linne	ニシキウス	坪田
15. <i>Calliostoma unicum</i> (Dunker)	エビスガイ	神着・坪田
16. <i>C. simodense</i> Ikebe	ハツカエビス	神着・坪田
17. <i>Cantharidus callichroa</i> (Philippi)	ハナチグサ	坪田
18. <i>C. hirasei</i> Pilsbry	カイドウチグサ	神着
19. <i>C. japonicus</i> (A. Adams)	チグサガイ	神着・伊ケ谷
20. <i>Monodonta neritoides</i> (Philippi)	クロズケガイ	神着
21. <i>Diloma suavis</i> (Philippi)	メクラガイ	坪田
22. <i>Tegula argyrostoma</i> (Tapparone-Canefri)	クボガイ	神着
23. <i>T. argyrostoma turbinata</i> (A. Adams)	ハソアキクボガイ	神着
24. <i>T. (Omphalius) nigerrima</i> (Gmelin)	ヒメクボガイ	坪田
25. <i>T. pfeifferi</i> (Philippi)	バテイラ	神着・坪田
26. <i>Tectus pyramis</i> (Born)	ギンタカハマ	神着・阿古・伊豆・坪田
27. <i>T. (Rochia) conus</i> (Gmelin)	ベニシリダカ	神着・阿古・坪田
Family Angariidae		カタベガイ科
28. <i>Angaria delphinus atrata</i> (Reeve)	カタベガイ	神着・伊ケ谷・坪田
Family Turbinidae		リユウテン科
29. <i>Turbo reevi</i> Philippi	タツマキササエ	神着
30. <i>T. (Marmarostoma) stenogyrus</i> Fischer	コシダカササエ	神着・伊ケ谷・阿古・坪田
31. <i>T. (Batillus) cornutus</i> Solander	ササエ	神着・伊ケ谷
32. <i>Astraea haematraga</i> (Menke)	ウラウスガイ	神着・坪田
33. <i>A. rhodostoma</i> (Lamarck)	オオウラウスガイ	神着・阿古・坪田
34. <i>A. heimbürgi</i> (Dunker)	カサウラウスガイ	神着・阿古・坪田
Family Phasianellidae		サラサバイ科
35. <i>Neotricolia megastoma</i>	ベニバイ	神着・坪田
36. <i>Phasianella modesta</i> (Gould)	サラサバイ	神着・阿古・坪田
Family Neritidae		アマオブネ科
37. <i>Nerita (Ritena) striata</i> Burrow	コシダカアカガイ	神着・坪田
38. <i>N. (Theliostyla) albicilla</i> Linne	アマオブネ	伊豆・阿古・坪田

Superfamily Littorinacea		タマキビ超科	
Family Littorinidae		タマキビ科	
39. Tectarius (Nodilittorina) pyramidalis (Qouy & Gaimard)	イボタマキビ	神着・坪田	
40. T. (Nodilittorina) granularis (Gray)	アラレタマキビ	神着・坪田	
Superfamily Cerithiacea		オニノツノガイ超科	
Family Vermetidae		ムカデガイ科	
41. Siliquaria cumingi Morch	ミヅガイ	坪田	
42. Serpuloorbis imbricatus (Dunker)	オオヘビガイ	坪田	
Family Cerithiidae		オニノツノガイ科	
43. Colina macrostoma (Hinds)	エビガイ	神着・坪田	
44. Ataxocerithium abnormale (Sowerby)	カタワカニモリ	神着	
45. Clypeomorus sordidula (Gould)	ホソユオロギ	神着	
46. Cerithium nodulosum (Bruguère)	オニノツノガイ	神着	
47. C. Citrinum Sowerby	キイロカニモリ	神着	
48. Semivertagus zebra (Kiener)	ハナカニモリ	坪田	
Superfamily Epitoniacea		イトカケガイ超科	
(Ptenoglassa)		(翼舌類)	
Family Epitoniidae		イトカケガイ科	
(Scalariidae)			
49. Gyroscala perplexa (Pease)	ネジガイ	坪田	
Family Janthinidae		アサガオガイ科	
50. Recluzia bensoni A. Adams var	ヒルガオガイ	神着	
51. Janthina janthina (Linne)	アサガオガイ	阿古・坪田	
52. J. (Violetta) iricolor Reeve	ルリガイ	坪田	
Superfamily Hipponicacea		スズメガイ超科	
Family Hipponicidae		スズメガイ科	
(Amaltheidae)			
53. Hipponix (Sabia) conicus Schumacher	キクスズメ	神着・伊豆・坪田	

54. H. (<i>Antisabia</i>) <i>foliacea</i> Qouy & Gaimard	カワチドリガイ	坪田
55. H. (<i>Pilosabia</i>) <i>pilosa</i> Deshayes	スズメガイ	坪田
Family Capulidae		カツラガイ科
56. <i>Capulus badius</i> Dunker	カセンチドリ	坪田
Superfamily Strombacea		ソデガイ超科
Family Strombidae		ソデガイ科
57. <i>Strombus</i> (<i>Labiostrombus</i>) <i>japonicus</i> (Reeve)	シドロ	神着
58. S. (<i>Conarium</i>) <i>mutabilis</i> Swainson	ムカシタモト	阿古
59. S. (<i>Conarium</i>) <i>dentatus</i> Linné	ミツユビガイ	神着
60. S. <i>microurceus</i> kuroda	ヒメムカシタモト	神着・阿古
61. <i>Lambis</i> (<i>Harpogo</i>) <i>chiragra</i> (Linne)	スイジガイ	阿古
Superfamily Lamellariacea		ベッコウタマガイ超科
Family Eratoidae		ザクロガイ科
62. <i>Trivirostra oryza</i> (Lamarck)	シラタマ	神着
Superfamily Cypraeacea		タカラガイ超科
Family Cypraeidae		タカラガイ科
63. <i>Staphylaea staphylaea</i> (Linné)	サメダカラ	神着
64. S. <i>limacina</i> (Lamarck)	シボリダカラ	神着
65. S. (<i>Nuclearia</i>) <i>nucleus</i> (Linné)	イボダカラ	阿古
66. <i>Erosaria labrolineata</i> (Gaskoin)	ナジシダカラ	阿古
67. <i>Monetaria</i> (<i>moneta?</i>) <i>monetoides</i> Iredale	ハナビラダカラ	阿古
68. <i>Cribraria cribraria</i> (Linne)	カノコダカラ	神着・阿古・坪田
69. C. (<i>Ovatipsa</i>) <i>chinensis</i> (Gmelin)	スソムラサキダカラ	神着・阿古・坪田
70. C. (<i>Talostolides</i>) <i>teres</i> (Gmelin)	エダカラ	神着・阿古・坪田
71. <i>Luria</i> (<i>Basilitrona</i>) <i>isabella</i> (Linné)	ヤナギンボリダカラ	阿古・坪田
72. <i>Peribolus</i> (<i>Arabica</i>) <i>arabica asiatica</i> (Schilder)	ヤクシマダカラ	神着・伊ヶ谷・阿古
73. P. (<i>Peribolus</i>) <i>mauritiana</i> (Linné)	ハチジヨウダカラ	神着・阿古
74. <i>Erronea</i> (<i>Palmadusta</i>) <i>asellus</i> (Linné)	ウキダカラ	阿古
75. E. (P.) <i>artuffeli</i> (Jousseaume)	チヤイロキヌタ	坪田
76. E. (<i>Purpuradusta</i>) <i>gracilis japonica</i> (Schilder)	メダカラガイ	神着・阿古・坪田
77. <i>Erosaria erosa</i> (Linné)	コモンダカラ	神着・阿古・坪田
78. E. (<i>Ravitrona</i>) <i>caputserpentis</i> (Linné)	ハナマルユキ	神着・伊ヶ谷・伊豆
79. <i>Cypraea</i> (<i>Lyncina</i>) <i>vanelli</i> Linné	ヒメホンダカラ	阿古 阿古・坪田
80. C. (<i>Mystaponda</i>) <i>vitellus</i> Linné	ホンキヌタ	神着・阿古・坪田

81. *Cypraea (Ponda) carneola* Linné クチムラサキダカラ 神着・阿古
 82. *Erosaria (Ravitroma) boivinii* (Kiener) チチカケナンジダカラ 神着・阿古

Superfamily Tonnacea ヤツシロガイ超科

Family Cassididae トウカムリ科

83. *Casmaria erinaceus* (Linne) ヒナヅル 阿古
 84. *C. cernica* (Sowerby) レンジヤクガイ 阿古
 85. *Cassis cornuta* (Linne) トウカムリ 伊豆大久保浜

Family Cymatiidae フジツガイ科

86. *Apollon pusillus* (Broderip) イサザボラ 神着
 87. *Cymatium (Monoplex) echo* Kuroda et Habe カコボラ 神着
 88. *C. (Septa) aquatile* (Reeve) サツマボラ 神着
 89. *C. (Septa) nicobaricum* (Røding) ミツカドボラ 神着・阿古
 90. *Distorsio anus* (Linne) ツマイボボラ 阿古
 91. *D. reticulata* (Røding) イボボラ 坪田
 92. *Charonia tritonis* (Linne) ホラガイ 神着
 93. *C. sauliae* (Reeve) ボウシユウボラ 阿古

Family Barsidae オキニシ科

94. *Bursa (Colubrellina) corrugata* (Perry) イワカワウネボラ 神着・阿古・坪田
 95. *B. (Lampadopsis) cruentata* (Sowerby) シワオキニシ 神着・阿古
 96. *B. (L.) rhodostoma* (Beck) オハダグロオキニシ 神着・阿古
 97. *B. (Bursa) bufomina* (Gmelin) オキニシ 神着・伊ヶ谷・阿古・坪田
 98. *B. (B.) mammata* (Røding) クチムラサキオキニシ 坪田
 99. *B. bufo* (Røding) オオナルトボラ 坪田

Order NEOGASTROPODA 新腹足目

(*Stenoglossa*) (狭舌類)

Superfamily Muricacea アツキガイ超科

Family Muricidae アツキガイ科

100. *Chicoreus asianus* Kuroda オニサザエ 神着・阿古・坪田
 101. *C. brunneus* (Link) ガンゼキボラ 神着・伊ヶ谷
 102. *Howalocantha anatomica* (Perry) イチヨウガイ 神着・阿古・坪田
 103. *Fabartia brevicula* (Sowerby) ヒシヨウラク 神着
 104. *F. Morisakii* Kuroda モリサキヨウラク 坪田
 105. *Cronia muricina* (Blainville) ウネレイシダマシ 神着
 106. *Cronia margariticola* (Broderip) ウネレイシダマシ 神着
 107. *C. (Morulina) granulata* (Duclos) レイシダマシ 坪田
 108. *C. (M.) paucimaculata* (Sowerby) コレイシダマン 坪田

109. <i>C. (M.) cavernosa</i> (Reeve)	キナフレイシダマン	神着
110. <i>Drupa (Morula) borealis</i> (Pilsbry)	ハチジヨウレイシダマン	神着・坪田
111. <i>D. (Drupa) ricina</i> (Linné)	キマダライガレイシ	伊ヶ谷・坪田
112. <i>D. (D.) albolabris</i> (Blainville)	シロイガレイシ	神着・伊豆・伊ヶ谷・坪田
113. <i>Nassa francolinus</i> (Bruguère)	ハナワレイシ	神着・阿古
114. <i>Purpura panama</i> (Røding)	テツボラ	神着・阿古・坪田
115. <i>P. (Mancinella) mancinella</i> (Linné)	キナレイシ	神着・伊豆・阿古・坪田
116. <i>P. (M.) luteostoma</i> (Holten)	クリフレイシ	神着・伊豆・阿古・坪田
117. <i>P. (M.) clavigera</i> Kùster	イボニシ	坪田
118. <i>P. (Pinaxia) citrina</i> (Kuroda)	ミカンレイシ	坪田・伊豆
119. <i>P. siro</i> (Kuroda)	シロレイシ	坪田・伊豆・阿古
120. <i>Ergalatax contractus</i> (Reeve)	ヒメヨウラク	坪田

Family Coralliophilidae サンゴヤドリ科

121. <i>Coralliophila violacea</i> (Kiener)	クチムラサキサンゴヤドリ	神着・阿古
122. <i>C. squamulosa</i> (Reeve)	シワトヨツガイ	坪田
123. <i>C. pyriformis</i> Kira	トヨツガイ	坪田

Superfamily Buccinacea エゾバイ超科

Family Columbellidae フトコロガイ科

124. <i>Pyrene flava</i> (Bruguère)	ムシエビ	坪田
125. <i>P. testudinaria tylerae</i> (Griffith & Pidgeon)	マツムシガイ	神着・坪田
126. <i>Anachis misera</i> (Sowerby)	ボサツガイ	神着・阿古・坪田
127. <i>A. misera polyniyniyma</i> (Pilsbry)	シヨウボサツガイ	神着
128. <i>A. misera nigromaculata</i> (Tomlin)	クロフボサツガイ	坪田
129. <i>Euplica verficolor</i> (Sowerby)	フトコロガイ	神着・坪田
130. <i>E. versicolor atladona</i> (Duclos)	イボフトコロ	坪田

Family Buccinidae エゾバイ科

131. <i>Pisania (Japeuthria) ferrea</i> (Reeve)	イソニナ	神着・坪田
132. <i>Babylonia formosae</i> (Sowerby)	タイワンバイ	神着・伊豆

Family Nassariidae ムシロガイ科

133. <i>Tritia (Reticunassa) hiradoensis</i> (Pilsbry)	ウネムシロ	神着・坪田
---	-------	-------

Family Fasciolaridae イトマキボラ科

134. <i>Latirus (Benimakia) rhodostoma</i> (Dunker)	ベニマキ	神着
135. <i>Peristernia nassatula</i> (Lamarck)	ムラサキツノマタモトキ	神着・阿古・坪田
136. <i>Latirus nagasakiensis</i> Smith	ナガサキニシキニナ	神着・伊ヶ谷・坪田

137. <i>L. (Latirulus) turritus</i> (Gmelin)	スジグロニシキニナ	神着
138. <i>Pleuroploca trapezium andouini</i> (Jonas)	ヒメイトマキボラ	神着・阿古・坪田
139. <i>P. glabra</i> Dunker	ツノキガイ	神着
140. <i>Fusinus nicobaricus</i> (Lamarck)	チトセボラ	坪田
Superfamily Volutacea		ヒタチオビ超科
Family Mitridae		チヨウセンフデ科
Subfamily Vexillinae		ミノムシガイ亜科
141. <i>Pusia pardalis consanguinea</i> (Reeve)	ミヨリオトメフデ	神着
142. <i>P. patriarchalis</i> (Gmelin)	クチミオトメフデ	阿古
143. <i>P. porphyretica</i> (Reeve)	ソメワケオトメフデ	神着
144. <i>P. discolaria</i> (Reeve)	シマオトメ	神着
Subfamily Mitrinae		チヨウセンフデ亜科
145. <i>Mitra (Strigatella) litterata</i> Lamarck	ミダレンマヤタテ	神着
146. <i>M. (S.) retusa</i> Lamarck	オオシマヤタテ	神着
Superfamily Conacea		イモガイ超科
(Toxoglossa)		(矢舌類)
Family Turridae		ハナヤカクダマキガイ科
147. <i>Turiss (Xenuloturris) cingulifera</i> (Lamarck)	シヤシククダマキ	伊ヶ谷
148. <i>Turridrupa bijubato</i> (Reeve)	クロイトマキハラブトシヤシク	神着
149. <i>T. cincta</i> (Lamarck)	イトマキハラブトシヤシク	神着
Family Conidae		イモガイ科
150. <i>Conus (Virroconus) ebraeus</i> Linné	マダライモ	坪田
151. <i>C. (V.) chaldeus</i> (Röding)	コマダライモ	阿古・坪田
152. <i>Conus (Virroconus) fulgetrum</i> Sowerby	サヤガタイモ	神着・坪田
153. <i>C. (V.) musicus</i> Bruguière	ガクフイモ	坪田
154. <i>C. (Chelyconus) fulmen</i> Reeve	バツコウイモガイ	神着・阿古
155. <i>C. (Dauciconus) vitulinus</i> Bruguière	サラサモドキ	神着・阿古
156. <i>C. (Pionoconus) magus</i> Linné	ヤキイモ	阿古
157. <i>C. (Rhizoconus) vexillum</i> Gmelin	カンバミナシ	神着・阿古
158. <i>C. (R.) miles</i> Linné	ヤナギンボリイモ	阿古・坪田
159. <i>C. (R.) capitaneus</i> Linné	サラサミナシ	伊ヶ谷
160. <i>C. (Virgiconus) flavidus</i> Lamarck	キヌカツギ	神着・伊ヶ谷・阿古
161. <i>C. (V.) lividus</i> Bruguière	イボシマイモ	神着・伊ヶ谷・坪田
162. <i>Gastridium obscurum</i> (Sowerby)	ムラサキアンボイ	阿古

163. <i>Darioconus textilis</i> (Linne)	タガヤサンミン	神着・坪田
164. <i>D. (Regiconus) aulicus</i> (Linne)	ツボイモ	坪田
165. <i>Virroconus ceylonensis</i> Brug	セイロンイモ	神着・阿古・坪田
Subclass EUTHNEURA	直神経亜綱	
Order PULMONATA	直肺目	
Suborder BASOMMATOPHORA	基眼亜目	
Superfamily Siphonariacea	カラマツガイ超科	
Family Siphonariidae	カラマツガイ科	
166. <i>Siphonaria japonica</i> (Donovan)	カラマツガイ	坪田
167. <i>S. sirius</i> Pilsbry	キノハナガイ	坪田
Order OPISTHOBRANCHIA	後魚眼目	
Suborder CEPHALASPIDEA	頭楯亜目	
Family Bullidae	ナツメガイ科	
168. <i>Bulla vernicosa</i> Gould	ナツメガイ	阿古
Superfamily Cavolinacea	カメガイ超科	
(Pteropoda; Thecosomata)	(翼足有殻類)	
Family Cavolinidae	カメガイ科	
169. <i>Clio Pyramidata</i> Linne	ウキビンガイ	坪田
170. <i>Cuvierina Collummella</i> (Rang)	ウキツツガイ	坪田
171. <i>Diacria trispinosa</i> (Blainville)	ヒラカメガイ	坪田
172. <i>Cavolina telemus</i> (Linne)	カメガイ	神着・坪田
173. <i>C. gibbosa</i> (d'Orbigny)	シロカメガイ	坪田
174. <i>C. globulosa</i> (Gray)	マルカメガイ	坪田
175. <i>C. longirostris</i> (Blainville)	ササノツユ	神着・坪田
176. <i>C. columnella urceolaris</i> (Mörch)	ツボウキツツ	神着・坪田
Suporder NUDIBRANCHIA	裸鰓亜目	
Superfamily Umbraculacea	ヒトエガイ超科	
Family Umbraculidae	ヒトエガイ科	
177. <i>Umbraculum umbraculum</i> (Humphrey)	ヒトエガイ	坪田

Class PELECYPODA	斧足綱	
(Lamellibranchia; Bivalvia)	(斧足類 双殻類)	
Subclass PRIONODESMACEA	原鞞帶亜綱	
Order FILIBRANCHIA	絲鰓目	
(Taxodonta)	(多齒類)	
Family Arcidae	フネガイ科	
178. <i>Barbatia lima</i> (Reeve)	エガイ	伊豆・坪田・阿古
179. <i>B. (Ustularca) bicolorata</i> (Dillwyn)	ベニエガイ	神着・坪田
180. <i>B. (Savignyarca) obtusoides</i> (Nyst)	カリガネエガイ	神着・阿古・坪田
Order PSEUDOLAMELLIBRANCHIA	擬斧足目	
Superfamily Pteriacea	ウグイスガイ超科	
Family Pteriidae	ウグイスガイ科	
181. <i>Pinctada margaritifera</i> Linné	クロチヨウガイ	坪田
182. <i>P. maculata</i> (Gould)	ミドリアオリガイ	坪田
Family Isognomonidae	シノモクアオリガイ科	
183. <i>Isognomon legumen</i> (Gmelin)	シロアオリガイ	坪田
Superfamily Pectinacea	イタヤガイ超科	
Family Pectinidae	イタヤガイ科	
184. <i>Chlamys irregularis</i> (Sowerby)	ナデシコガイ	神着・阿古
185. <i>C. schmeltzi</i> (Kobelt)	ヤガスリヒヨク	坪田
186. <i>C. nipponensis kuroda</i>	アズマニシキ	阿古
187. <i>Spondylus cruentus</i> Lischke	チリボタン	坪田
Superfamily Ostreacea	イタボガキ超科	
Family Ostreidae	イタボガキ科	
188. <i>Ostrea (Saxostrea) chemnitzii</i> Hanley	ベニガキ	坪田
189. <i>O. (S.) mordax</i> Gould	オハグロガキ	

Order PARAFILIBRANCHIA (Anomiacea)	擬絲鰓目	
Family Anomiidae	ナミマガシワ科	
190. <i>Anomia lischkei</i> Dautzenberg & Fischer	ナミマガシワ	坪田
Order ISOFILIBRANCHIA (Dysodonta)	等絲鰓目 (弱齒類)	
Family Mytilidae	イガイ科	
191. <i>Modiolus nipponicus</i> (Oyama)	ヒバリガイ	神着・伊豆
192. <i>VolSELLA</i> (<i>Modiolatus</i>) <i>elongata</i> (Swainson)	(波部)ツヤガラス	神着
193. <i>Septifer bilocularis</i> (Linné)	クシヤクガイ	神着
194. <i>Musculus</i> (<i>Modiolarca</i>) <i>neglectus</i> Kuroda	チビタマエガイ	坪田
Superfamily Carditacea	トマヤガイ超科	
Family Carditidae	トマヤガイ科	
195. <i>Cardita leana</i> Dunker	トマヤガイ	伊ヶ谷・阿古・坪田
Superfamily Chamacea	キクザル超科	
Family Chamidae	キクザル科	
196. <i>Chama dunkri</i> Lischke	ケイトウガイ	神着・阿古・坪田
197. <i>C. ambigua</i> Lischke	ヒトエギク	坪田
Superfamily Veneracea	マルスダレガイ超科	
Family Veneridae	マルスダレガイ科	
198. <i>Gafrarium disper</i> (Dillwyn)	ヒメイナミガイ	阿古・坪田
199. <i>Venus toreuma</i> Gould	シコロガイ	神着・坪田
200. <i>Periglypta reticulata</i> (Linné)	アラヌノメ	伊ヶ谷
201. <i>Venus tereuma</i> (Gould)	マルスダレガイ	坪田
202. <i>Tapes</i> (<i>Amygdala</i>) <i>variegata</i> (Sowerby)	ヒメアサリ	伊ヶ谷・坪田
Subclass OPISTHOBRANCHIA	後鰓亜綱	
Order ANASPIDEA	無楯目	
Family Aplysiidae	アメフラシ科	
203. <i>Aplysia oculifera</i> A. & . R	ミドリアメフラシ	坪田・神着
204. <i>A. Kurodai</i> BABA	アメフラシ	坪田
205. <i>A. dactyломela</i> RANG	ジヤノメアメフラシ	伊豆大久保浜

206. *Dolabella auricularia* SOLANDER

タツナミガイ 坪田

Class CEPHALOPODA

頭足綱

Subclass DIBRANCHIA

二鰓亜目

Order DECAPODA

十腕目

Superfamily LOLIGINACEA

ヤリイカ超科

Family Loliginidae

ヤリイカ科

207. *Doryteuthis bleekeri* KEFERSTEIN

ヤリイカ

坪田・神着

208. *Sepioteuthis lessoniana* LESSON

アホリイカ

坪田・阿古

Order OCTOPODA

八腕目

Superfamily ARGONAUTACEA

タコブネ超科

Family Argonautidae

タコブネ科

209. *Argonauta hians* SOLANDER

タコブネ

伊豆大久保浜

210. *A. boettgeri* MALTZAN

チヂミタコブネ

伊豆大久保浜

211. *A. argo* LINNE

アオイガイ

坪田

Ⅱ 三宅島の魚類相と漁獲量

(第 1 報)

三宅島の魚類相

三宅島は伊豆七島のほぼ中央にあり、年平均の水温は 22.5°C とかなり高水温帯に位置している。したがって、この島の魚類相は、生物地理学上まことに興味深い。また、この海域から生産される魚類資源はかなり多く、ここに潜在する未開発資源の量は、われわれが想像する以上に大きいと考えられる。

この魚種別資源量を知ることは、今後の水産開発上重要な課題であろう。たとえば、過去にどのような魚類がどの位生産されたかなどを知ることは、この島周辺の魚種別資源量を知る一つの目安になるのではないかと思われる。

このような観点から今回の三宅島水産開発調査で、各種漁業の試験操業や各漁業協同組合で水揚げされた魚類、およびわれわれの潜水観察によつて得られた魚類などについて、不完全ではあるがここに2か年間の成果として魚類目録を作製し、あわせて累年魚種別水揚高について若干の検討を加えて見た。これによつて今後の島しょ開発の指針となれば幸いである。

魚類目録

この目録は松原(1952)の「日本産魚類検索」によつて学名と記載の順序を統一した。

三宅島産の同定できた魚類を整理した結果、65科122種を得た。これらのうち、サバ科がもつとも多く11種・アジ科9種・フェダイ科8種・トビウオ科・ベラ科各7種で、その他の科は4~1種であつた。

実際にはもつと多数の魚種がせい息していることは明らかであるが、残念ながら潜水などで観察しても手にとつて魚種を同定できない場合が多いので、本目録に記載できない魚類も多数あると思われるので今後、(いそ)採集や長期間の滞在により、多くの魚類を採捕し究明する考えである。

分布上特種な魚類

日本産の魚類の分布については田中(1921)の詳細な報告があるが残念なことに伊豆七島については除外されている。

当场において1931年に大島近海産魚類22種を中間発表した後、さらに採集を続け目録を作成中であるが、発表の機会にいたっていない、今回の三宅島の魚類目録には大島と共通種が多いが、その量的な問題はかなり相異点がある。これらの点については後に報告するが、分布

上特種な魚類について2. 3のべる。

アミメミノカエルウオ *Cirripectus sebae* (C. & V.) は青柳兵司(1955)によつて琉球列島の宮古島・石垣島より初めて採集記録された。従来、アンボイナ・ハワイ・サモア等の南方諸島に分布していたもので本邦からは未記録である。

本種は筆者等の調査で既に八丈島から採集され、今回三宅島伊豆からも採集された。従つて伊豆諸島の南部にはまれではあるが分布しているものと思われる。

アマシイラ *Luvarus imperialis* Rafinesque が1961年5月三宅島阿古・鏑が浜に1尾漂着した。もちろん、土地の人はこの魚種についてはわからず、偶然在島していた筆者らの1人が魚屋に引取られた魚体を見てアマシイラと同定したものである。阿古漁協の某氏によれば数年前にも1尾漁獲されたことがある由である。

本種は汎熱帯性魚類で広く大洋に分布しているが、日本における漁獲記録は少なく、筆者らの知る限りではこの三宅島のものが9尾目に当る。この漁獲記録のうち、5尾は伊豆諸島から記録されており、加えて近年その漁獲尾数が増加していることは、黒潮勢力の増大による高水温と関係があるものと推定されるので別の機会に検討を試みたい。

沿岸性魚類と見なされる種類にインダイ *Oplegnathus punctatus* (T. & S.)・マダイ *Chrysophrys majot* (T. & S.) がある。インダイ・マダイは伊豆七島では三宅島まで分布しており、八丈島には分布していない。この事実は沿岸水が伊豆七島におよぼす範囲を示すもので、このうちにとくにインダイは生育途上の稚魚期を流れ(も)などによつて浮遊生活をするので、本邦沿岸を流れる海(藻)類によつて分布が制約されているといえよう。

マダイについて在島漁業者の話ではまったく漁獲したことがない由であるが、最近當場試験船によつて漁獲確認された。

ウナギ *Anguilla japonica* (T. & S.) は大路池・新澤池などカルデラ湖があるにかかわらず分布していないが、阿古・鏑が浜の漁港建設に伴い、岩磐削りつ箇所(ゆう)水地帯から数多く漁獲されている。本種について松井(1952)が「遠山(1937)によると八丈島、三宅島に分布」と記載しているが、遠山(1937)の原書には八丈島・三宅島に分布していることはふれていない。

水産上重要魚類の水揚高

昭和23年から同35年までの13年間、三宅島の漁獲統計にあらわれた魚種別漁獲量の累

年変化を表Ⅰに、近年3ヶ月の月別漁獲量を表Ⅱ～Ⅳに示した。最も重要な魚種は、カツオ・ムロアジ・トビウオ類の回遊性魚類で占められている。また、その他の魚類でもブリ・ソーダカツオ・マグロ類（キハダ・メジ）などの広く回遊する魚類とタカベ・シマアジ等の狭い回遊をする磯魚類が量的にも多く、定着性の底魚類ヒメダイ・アオダイ・ハマダイ・メダイ・クロムツ等は多量に（せい）息している、三宅島で漁獲され、統計面にできるようになったのは28年以降である。また、定着性の（いそ）魚漁場ではアカハタが最も多く、その他ハタ類や、ニザダイ・メジナ類・ベラ類（ブダイ）・ウツボなどが多い。今後、各種漁業の発達によつて水揚げ魚類が増加するのは当然であろうが、統計面に出現する魚種は20種で（せい）息回遊する魚類相の豊富なのに比べて貧弱である。このことは、三宅島の特性（自然的・地理的・社会的・経済的）であるといえよう。これを昭和33年～35年度（3か年）に水揚げされた魚種別・漁獲量を平均して、その割合を百分率（%）で示すと表Ⅴの様に、浮魚が98.7%と大部分を占め、底魚は1.3%ときん少である。これ等、重要魚種について若干の考察を加えると次のようである。

浮魚については、黒潮流軸や流量の変化によつてトビウオ・カツオ・マグロ・ムロアジ類が相当量、本島周辺の海域に集中する。

たとえば、カツオを例にとれば、三宅近海（34～35°N）に出現して漁獲される内地漁船の水揚量は、70～90万貫（29～30年度）で、これに比べてカツオ水揚量は、最も多く水揚げされた昭和25年で1.2万貫である。また、ハルトビウオ（ハマトビウオ）について見ると、式根・神津島から出漁して本島周辺で漁獲した水揚量は104万尾、三宅漁船が95万尾、計210万尾が漁獲されている（36年）。したがつて、この海域に回遊する回遊漁類の資源量はかなり大きいことが想像される。また、底魚についても三宅周辺の大陸棚の（がい）部は広大であるが、周年、潮流が早く、また、漁場の探索が充分でないので、（せい）息量の推定は不可能であるがおそらく底魚類の未開拓漁場は多数存在するものと推定される。その他市場価格の高い魚ではシマアジ・タカベ等は狭い回遊をする魚類である。いずれも本島周辺漁場は開発次第でなを豊富な魚種と水揚げが期待される。

引用文献

- 1 遠山 宜雄 1937 : 小笠原郡島近海生物について、東京都小笠原支庁
- 2 東京都 1948～1960 : 東京都の水産、昭和23年度～昭和35年度

東京都経済局 水産課

- 3 松井 魁 1952 : 日本産鰻の形態・生態ならびに養成に関する研究
農林省、水溝研究報告、2(2)
 - 4 東京都 1953 : 三宅島の水産、三宅支庁
 - 5 東京都 1954 : 大島近海の魚類について、東水試出版物通刊82号
 - 6 青柳兵司 1955 : 琉球列島産珊瑚礁魚類の研究 X ギンポ科(2)
動雑、64(3)
 - 7 松原喜代松 1955 : 魚類の形態と検索、石崎書店
 - 8 阿部宗明 高島百合子 1956 : 小笠原諸島-伊豆諸島の重要食用魚類の
数種について-I オオヒメ(新称)、東海区水研研究報
告、14
 - 9 東北水研 1961 : 海洋資源年報、昭和30年度、カツオ資源篇
-

調査担当者

大島分場 調査指導室

技 師 倉 田 洋 二

漁務指導室

技 師 中 川 政 男

三宅島産魚類目録

Family Sphyrnidae	シユモクザメ科
1. <i>Sphyrna zygaena</i> (Linné)	シユモクザメ
Family Carcharhinidae	メジロザメ科
2. <i>Glyphis glaucus</i> (Linné)	ヨシキリザメ
Family Squalidae	ツノザメ科
3. <i>Squalus mitsukujii</i> J. & H.	ツノザメ
Family Dasyatidae	アカエイ科
4. <i>Urolophus aurantiacus</i> M. & H.	ヒラタエイ
Family Engraulidae	カタクチイワシ科
5. <i>Engraulis japonica</i> (HOULTUYN)	カタクチイワシ
Family Myctophidae	ハダカイワシ科
6. <i>Myctophum affine</i> (LÜTKEN)	ススキハダカ
Family Anguillidae	
7. <i>Anguilla japonica</i> T. & S.	ウナギ
Family Ophichthidae	ウミヘビ科
8. <i>Myrichthys aki</i> TANAKA	ゴイシウミヘビ
Family Muraenidae	ウツボ科
9. <i>Muraena pardalis</i> T. & S.	トラウツボ
10. <i>Gymnothorax Kidako</i> (T. & S)	ウツボ
Family Scombresocidae	サンマ科
11. <i>Cololabis saira</i> (BREVCORT)	サンマ
Family Hemiramphidae	サヨリ科
12. <i>Euleptorhamphus longirostris</i> (CUVIER)	トオザヨリ

Family Exocoetidae

トビウオ科

- | | |
|---|-------------|
| 13. Parexocoetus bachypterus (Richardson) | ツマリトビウオ |
| 14. Exocoetus obtusirostris (Gunther) | ハゴロモトビウオ |
| 15. Cypselurus poecilopterus (C. & V.) | アヤトビウオ |
| 16. C. japonicus (Franz) | ハマトビウオ |
| 17. C. atrisignis Jenkins | アカトビ |
| 18. Hirundichthys oxycephalus (Bleeker) | ホソアオトビ |
| 19. Prognichthys agoo (T. & S.) | トビウオ (ホントビ) |

Family Aulostomidae

ヘラヤガラ科

20. Aulostomus chinensis (Linne)

ヘラヤガラ

Family Fistulariidae

ヤガラ科

21. Fistularia villosa Klunzinger

アオヤガラ

Family Macrorhamphosidae

サギフエ科

22. Macrorhamphosus scolopax (Linne)

サギフエ

Family Holocentridae

イトトウダイ科

23. Myripristis murdjan (Forsk.)

アカマツカサ

Family Atherinidae

トウゴロウイワシ科

24. Atherion elymus J. & S.

ムギイワシ

Family Mugilidae

ボラ科

25. Liza macrolepis (Andrew Smith)

コボラ (テニヂクメナダ)

Family Sphyraenidae

カマス科

26. Sphyraena japonica C. & V.

ヤマトカマス

Family Scombridae

サバ科

- | | |
|--|---------------|
| 27. Thunnus alalunga (Bonnaterre) | ビンナガ |
| 28. Parathunnus obesus (Lowe) | メバチ |
| 29. Neothunnus albacora (Lowe) | キハダ |
| 30. Sarda orientalis (T. & S.) | ハガツオ (キツネガツオ) |
| 31. Gymnosarda unicolor (Ruppell) | イソマグロ |
| 32. Euthynnus affinis yaito Kishinouye | スマ (ヤイト) |
| 33. Katsuwonus pelamis (Linne) | カツオ |
| 34. Auxis thazard (Lacépède) | ヒラソウダ |

35. <i>Auxis tapeinosoma</i> Bleeker	マルソウダ
36. <i>Scomber tapeinocephalus</i> Bleeker	ゴマサバ (マルサバ)
37. <i>Scomberomorus niphonius</i> (C. & V.)	サワラ
Family Histiophoridae	
	マカジキ科
38. <i>Makaira mitsukurii</i> (J. & S.)	マカジキ
39. <i>M. mazara</i> (J. & S.)	クロカジキ (クロカワ)
40. <i>Histiophorus orientalis</i> (T. & S.)	バシヨウカジキ
Family Xiphiidae	
	メカジキ科
41. <i>Xiphias gladius</i> (Linné)	メカジキ
Family Coryphaenidae	
	シイラ科
42. <i>Coryphaena hippurus</i> Linné	シイラ
Family Luvaridae	
	アマシイラ科
43. <i>Luvarus imperialis</i> Rafinesque	アマシイラ
Family Carangidae	
	アジ科
44. <i>Decapterus russellii</i> (Rüppell)	オアカムロ
45. <i>D. muroadsi</i> (T. & S.)	ムロアジ (アカゼ)
46. <i>D. lajang</i> Bleeker	モロ (ムロ)
47. <i>D. macrosoma</i> Bleeker	クサヤモロ
48. <i>Caranx delicatissimus</i> (Döderlein)	シマアジ
49. <i>Seriola aureovittata</i> (T. & S.)	ヒラマサ
50. <i>S. quinqueriata</i> (T. & S.)	ブリ
51. <i>S. purpurascens</i> (T. & S.)	カンパチ
52. <i>Elagatis bipinnulata</i> (Q. & G.)	ツムブリ
Family Labracoglossidae	
	タカベ科
53. <i>Labracoglossa argentiventris</i> Peters	タカベ
Family Stromateidae	
	イボダイ科
54. <i>Ocyrius japonicus</i> (Döderlein)	メダイ
Family Pempheridae	
	ハタンボ科
55. <i>Pempheris umbrus</i> (Snyder)	ツマグロアゴナン
56. <i>P. vanicolensis</i> Cuvier	ミナミハタンボ

	Family Oplegnathidae	インダイ科
57.	<i>Oplegnathus fasciatus</i> (T. & S.)	インダイ
58.	<i>O. punctatus</i> (T. & S.)	インガキダイ
	Family Mullidae	ヒメジ科
59.	<i>Pseudupeneus spilurus</i> (Bleeker)	オキナヒメジ
	Family Emmelichthyidae	チビキ科
60.	<i>Erythrocles schlegeli</i> (Richardson)	チビキ
	Family Priacanthidae	キントキダイ科
61.	<i>Priacanthus hamrur</i> (Forsk.)	ホウセキキントキ
62.	<i>P. boops</i> (Schneider)	チカメキントキ
	Family Kuhliidae	ユゴイ科
63.	<i>Kuhlia taeniura</i> (C. & V.)	ギンユゴイ
	Family Pomatomidae	ムツ科
64.	<i>Scombrops boops</i> (Houttuyn)	ムツ
	Family Histiopteridae	カワビジヤ科
65.	<i>Evistias acutirostris</i> (T. & S.)	テングダイ
	Family Serranidae	スズキ科
66.	<i>Epinephelus septemfasciatus</i> (Thunberg)	マハタ
67.	<i>E. fasciatus</i> (Forsk.)	アカハタ
68.	<i>E. moara</i> (T. & S.)	クエ
	Family Girellidae	メジナ科
69.	<i>Girella punctata</i> Gray	メジナ
70.	<i>G. melanichthys</i> (Richardson)	クロメジナ
71.	<i>G. mezina</i> J. & S.	オキナメジナ
	Family Kyphosidae	イスズミ科
72.	<i>Kyphosus lembus</i> (C. & V)	イスズミ (ゴクラクメジナ)

	Family Sparidae	タイ科
73.	<i>Chrysophrys major</i> T. & S.	マダイ
	Family Lethrinidae	フエフキダイ科
74.	<i>Lethrinus haematopterus</i> T. & S.	フエフキダイ
75.	<i>L. choerorhynchus</i> (Schneider)	ハマフエフキ
	Family Lutjanidae	フエダイ科
76.	<i>Lutjanus kasmira</i> (Forsk.)	ヨスジフエダイ (スジフエダイ)
77.	<i>Paracaesio xanthurus</i> (Bleeker)	ウメイロ (ヒワダイ)
78.	<i>P. caeruleus</i> (Katayama)	アオダイ
80.	<i>Pristipomoides microdon</i> (Steindachner)	ハナフエダイ
81.	<i>P. filamentosus roseus</i> (Castelnau)	オオヒメ
82.	<i>P. siebomdides</i> (Bleeker)	ヒメダイ
83.	<i>Etelis carbunculus</i> C. & V.	ハマダイ
	Family Pentapodidae	メイチダイ科
84.	<i>Gymnocanius griseus</i> (T. & S.)	メイチダイ
	Family Caesionidae	タカサゴ科
85.	<i>Caesio chrysozonus</i> C. & V.	タカサゴ
	Family Aplodactylidae	タカノハダイ科
86.	<i>Gonistius zonatus</i> (C. & V.)	タカノハダイ
87.	<i>G. quadricornis</i> Günther	ユウダチタカノハ
88.	<i>G. zebra</i> (Döderlein)	ミギマキ
	Family Tripterygiidae	ヘビギンボ科
89.	<i>Tripterygion etheostoma</i> J. & S.	ヘビギンボ
	Family Blenniidae	イソギンボ科
90.	<i>Cirripectus sebae</i> (C. & V.)	クロタテガミカエルウオ
91.	<i>Istiblennius enosimae</i> (J. & S.)	カエルウオ
	Family Pomacentridae	スズメダイ科
92.	<i>Amphiprion xanthurus</i> (C. & V.)	クマノミ
93.	<i>Pomacentrus coelestis</i> (J. & S.)	ソラスズメダイ
94.	<i>Abudefduf vaigiensis</i> (Q. & G.)	オヤビツチャ

	Family Labridae	ベラ科
95.	<i>Choerodon azurio</i> (J. & S.)	イラ
96.	<i>Bodianus bilunulatus</i> (Lacépède)	キツネベラ
97.	<i>Semicossyphus reticulatus</i> (C. & V.)	コブダイ
98.	<i>Thalassoma cupido</i> (T. & S.)	ニシキベラ
99.	<i>Labroides dimidiatus</i> (C. & V.)	ホンソメワケベラ
100.	<i>Stethojulis kalosoma</i> (Bleeker)	カミナリベラ
101.	<i>Inistius dea</i> (T. & S.)	テンス
	Family Scaridae	ブダイ科
102.	<i>Leptoscarus japonicus</i> (C. & V.)	ブダイ
103.	<i>Callyodon ovifrons</i>	アオブダイ
	Family Platacidae	ツバメウオ科
104.	<i>Platax pinnatus</i> (Linné)	ツバメウオ
	Family Scorpionidae	カゴカキダイ科
105.	<i>Microcanthus strigatus</i> (C. & V.)	カゴカキダイ
	Family Chaetodontidae	チヨウチヨウウオ科
106.	<i>Pomacanthus semicirculatus</i> (C. & V.)	サザナミヤッコ
107.	<i>Chaetodon collaris</i> Bloch	チヨウチヨウウオ
108.	<i>Chaetodon nippon</i> (S. & D.)	シラコダイ
	Family Zanclidae	ツノダン科
109.	<i>Zanclus cornutus</i> (Linné)	ツノダン
	Family Acanthuridae	ニザダイ科
110.	<i>Prionurus microlepidotus</i> Lacépède	ニザダイ
	Family Siganidae	アイゴ科
111.	<i>Siganus fuscescens</i> (Houttuyn)	アイゴ
	Family Balistidae	モンガラカワハギ科
112.	<i>Balistes conspicillum</i> (B. & S.)	モンガラカワハギ
	Family Ostraciontidae	ハコフグ科
113.	<i>Ostracion tuberculatus</i> Linné	ハコフグ

114. <i>Lactoria diaphanus</i> (B. & S.)	ウミスズメ
Family Tetraodontidae	フグ科
115. <i>Canthigaster rivulatus</i> (T. & S.)	キタマクラ
Family Diodontidae	ハリセンボン科
116. <i>Diodon holacanthus</i> Linné	ハリセンボン
117. <i>Chilomycterus affinis</i> Günther	イシガキフグ
Family Molidae	マンボウ科
118. <i>Mola mola</i> (Linné)	マンボウ
Family Scorpaenidae	フサカサゴ科
119. <i>Sebastiscus marmoratus</i> (C. & V.)	カサゴ
120. <i>Pterois lunulata</i> (T. & S.)	ミノカサゴ
Family Cephalacanthidae	セミホウボウ科
121. <i>Daicocus peterseni</i> (Snystrom)	ホシセミホウボウ
Family Echeineidae	コンバンザメ科
122. <i>Remora albescens</i> (T. & S.)	シロコバン

表 I 三宅島産魚種別漁獲量累年変化（東京都の水産より引用）

魚種	カツオ	ソウダガツオ	マグロ類	ブリ	カンパチ	ヒラマサ	サワラ	カジキ類	シイラ	サメ類	シマアジ	モロロシ（ムロアジ）	ムロアジ（アカセ）	マアジ	トビウオ類	タカベ	アカハタ（カサゴ）	その他イナダ	アサギ	ウメイロ	ハマダイ	ヒメダイ	メダイ	クロムツ	チビキ	アコウダイ	
2 3	29,839			1,013								34,459	540		41,108	8,010		352									
2 4	1,526			187		255						81,971			74,381	2,160											
2 5	43,793											222,101			202,257	3,668		3,675									
2 6	16,335	6,491		45							4,020	25,080	311		319,762	27,608		2,119									
2 7	5,445	4,702		409							112	317,910		844	148,134	4,110	187										
2 8	5,966	1,200		120							112				221,656	2,411		105	476			401					
2 9	11,831						90				206	2,434			374,694	10,046		645	5,284								
3 0	14,486	435		124							1,980	152,756			304,956	8,738		5,810	131								
3 1	86			19							814	414,699			204,060	1,050		22,309	1,988					188			
3 2	10,511	1,624		514	311			90		244	458	60,169			39,049	746	885	9,308	2,093								
3 3	3,404	30		1,443	319			314		228	497	881	1,781		178,890	1,742	1,768	1,691	718			80					
3 4	11,265			2,525	899	257	25				13,857	12,774			212,367	5,849	731		2,888			6	45				
3 5	17,410	157		2,247	3,134	2,825	300		84	1,057	5,345	227,216			228,269	7,356	1,766	696	1,405	23		168	29				

註 1. ()内は三宅島産用産（表Ⅱ～Ⅳは同様）

II 三宅島漁獲高（昭和33年1月～12月）

魚種	単位 kg												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ハマダシ											61	111	172
メダシ											11	11	11
アオダシ					26	7	39	64	131	1,671	411	2,349	2,349
ヒメダシ						30	38	4	37	214	288	611	47
オオヒメ (オオゴ)											2	2	2
ムツ													
ハタ					78	5	25	49	116	201	715	1,189	1,189
アカハタ (カサゴ)						197	96	7	260	34	114	701	701
カンバチ							7	29			63	99	99
ズリ						56					62	529	529
サワラ							7	304				311	311
カサオ	169			78							2	1,163	1,163
マルソウダ (ウズウ)										36	105	30	171
マダラ (メチ)	255				240		355	61	225	4		13,999	13,999
カジキ					38		15		43			160	160
シイ								3				3	3
サメ											67	30	270
ムロ													
ムロ (モロ)													
ムロ (アカセ)													
シマアジ					33						14	5	61
ハマトビウオ (ハルトビウオ)		3,694	10,425	86,228	30,577								135,596
ナツトビウオ													
ナツトビウオ													
その他	750	938	503	72	15	719	374	40	287	85	3,783	3,783	3,783

III 三宅島漁獲高（昭和34年1月～12月）

魚種	単位 kg												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ハマダシ	45									106			151
メダシ	69									8	37		114
アオダシ	40								2	2,779	107		2,928
ヒメダシ		17								15			32
オオヒメ (オオゴ)										6			6
ウメ (オキタカ)										26	11		37
ハタ	113										52		165
アカハタ (カサゴ)										129	278	272	679
カンバチ	16	8				414	457		257	7			1,159
ズリ	66										7		73
サワラ											25		25
カサオ		18	23,88			1,875	400		23,15	48,75	1,800		13,671
マルソウダ (ウズウ)	181	15							9	107	4	1,144	1,615
マダラ (メチ)	37	266	48										259
カジキ	259	170											259
シイ													170
サメ													
ムロ													
ムロ (モロ)													
ムロ (アカセ)													
シマアジ						10,257	496		3,272	39,06	4571		12,774
ハマトビウオ (ハルトビウオ)										2248	10		13,011
ナツトビウオ		210	57,246		63,13		2,270	1,685	583				63,789
ナツトビウオ													
その他	71												71

IV 三宅島漁獲高(昭和35年1月~12月)

単位 kg

魚種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
メダイ									1090	5	24		29
アオダイ									85	238	77		1405
ヒメダイ									25	58	27		168
ウメイロ									78	101	175	23	23
ハタ									* 683		215	* 360	377
アカハタ (カサゴ)	* 430	* 580	* 300						60	16	80	12	2566
カンバチ					2790	176							3154
ヒラマサ	14				2513	164	131					17	2839
サワラ									196	29	40	35	300
カツオ					260		2593	870	1617	9544	1750	624	17238
マルソウダ (ウズリ)									36	46	75		157
メジ	1233		48						187	219	1007	263	2957
シイラ									84				84
サメ類				1035									1057
モロ (ムロアジ)											22		1057
シマアジ							2019	1169	15641	12166	180466	15755	227216
ハマトビウオ (ハルトビウオ)					2902	1536		77	409				5345
ナトビウオ類	65	40435	128027		31891								201418
タカ							17907	9340	2928			370	30175
その他	250	250	110				854	6152	250			96	7356

註1 アカハタの*はミクラ島海水操高

V 魚種別漁獲高百分率

魚種	平均漁獲量	百分率(%)
トビウオ類	206,509 kg	68.0
モロ(ムロアジ)	80,290	22.0
カツオ	10,695	3.1
シマアジ	6,566	
タカ	4,982	
マダラ	2,072	
カンバチ	1,130	
ヒラマサ	942	
ムロアジ(アカセ)	594	5.6
サメ	428	
ブリ	408	
サワラ	212	
カサゴ	105	
マルソウダ	62	
シイラ	28	
アオダイ	1,670	
ヒメダイ	225	
メジ	51	
ハマトビウオ	50	0.6
ム		
アカハタ	1,422	
ハタ	796	0.7
その他		

Ⅲ 底魚一本釣漁場調査

(第 2 報)

底魚一本釣漁場調査（第2報）

前年度の調査計画に基づいて継続して事業実施にあつた。前年の漁場調査において、有望漁場と確認された漁場の精密調査と漁場価値の判定にあつた。調査期間は短く、かつ時化のため調査を阻まれたが、その調査結果を第1図に示した。

(1) A漁場

漁場の面積は小さいが、魚群はヒメダイ（体重700～750g）が濃密に謂集しており、（え）付良好であつて漁場価値は極めて高いことが証明された。

(2) B漁場

潮流が早いのでA漁場の調査は不可能となつたので、魚群探知機を活用して、アノウ崎の水深60mの小（おう）瀬に試験（なわ）を投入したところ、意外にもヒメダイ濃密に遭遇し好漁場であることが確認された。魚体はA漁場に比較してやや小型（体重500g）である。また、漁場は比較的狭い。

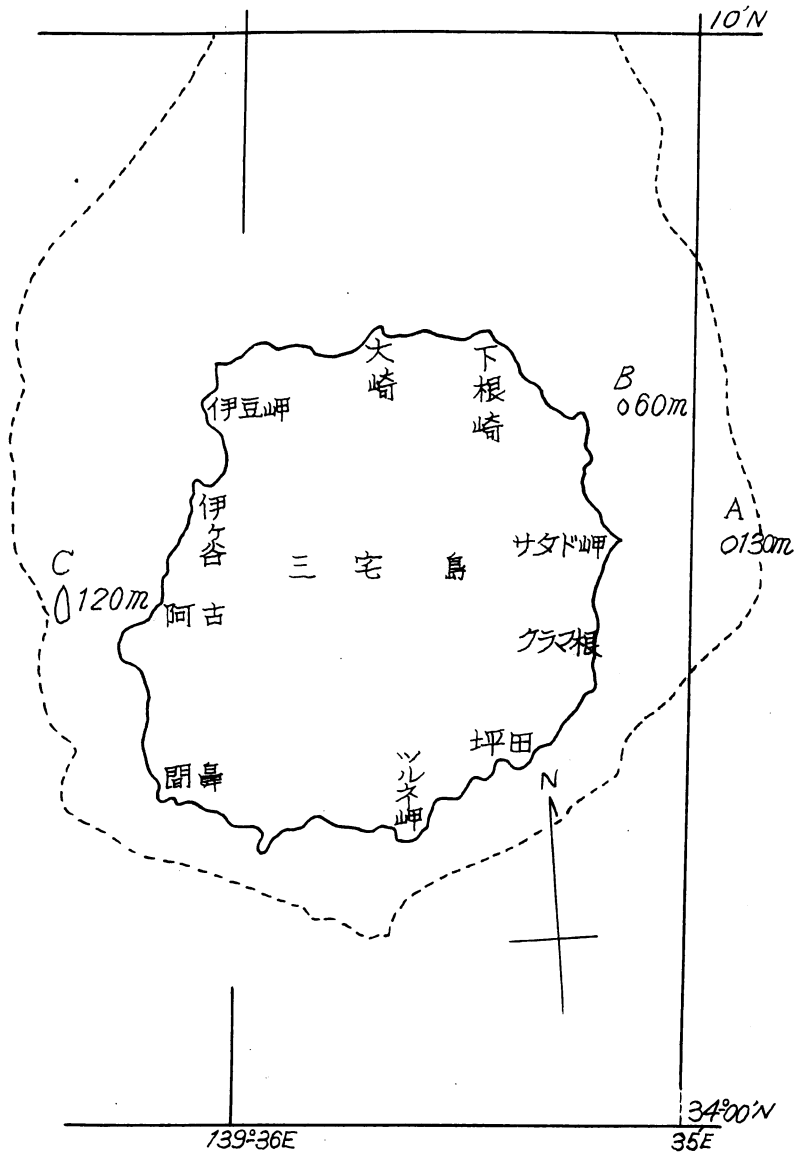
(3) C漁場

前年未調査の阿古沖魚礁を調査したところ、A漁場と同様にヒメダイが、短時間のうちに多量漁獲され、ここも好漁場であることが証明された。

以上の調査結果から三宅島の東、西側の水深60～130mの海域（魚礁）には多量のヒメダイが来遊していたことが判かつた。昭和34年10月の調査においては同漁場でアオダイが漁獲対象魚であつたが、今回は全くみられなかつた。このような観点から考察すると、魚群の生態および環境条件によつて漁獲物組成に変動が認められるので、今後この関係を検討する必要がある。いずれにしても甚だ興味深い問題である。

第1表 底魚一本釣漁業 調査表

月日	符号	漁業位置	水温	水深	潮流	操業時間	漁獲物	備考
6.29	A	サタドー岬 E 1.0 湊	25.1°C	120m ～130	NN E _{kt} 0.8 _{kt}	13 ～10m 17 ～25 07 ～00	ヒメダイ 25kg	
7.1	"	"	25.4°C	"	"	17 ～00	ヒメダイ 60kg マハタ 8kg	
7.3	C	阿古 W 1.1 湊	25.5°C	125 ～140	E _{kt} 1.0 _{kt}	11 ～30 14 ～10	ヒメダイ 20kg	
7.4	B	アノウ崎 E 0.5 湊	24.9°C	60～65	NW _{kt} 1.5 _{kt}	06 ～25 14 ～30	ヒメダイ 25kg	潮早い



第1図 漁場図

調査担当者

大島分場漁撈指導室

技 師 小 西 尚 男

水 員 田 中 七 郎 黒 雲 三 次 郎

Ⅳ 坪田港における定置観測

43 ~ 64

坪田港における定地観測

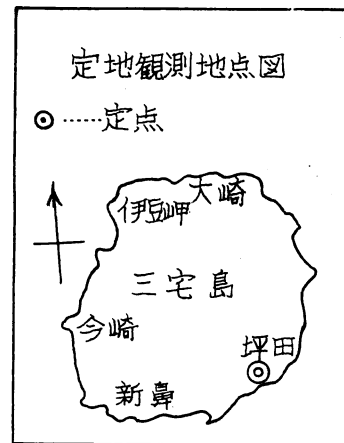
I まえがき

伊豆七島海嶺を越える黒潮は、冷水塊の出現に伴って流軸の移動・流量・流速が変動し、従って水温・塩素量その他海洋条件が年々時期・時間によつて変動し、これがトビウオ・ムロアジ・カツオ類およびテングサなどの生産量と密接な関係にある。

現在、伊豆七島では大島および新島ならびに八丈島で定地観測が行われているが、地理的に伊豆七島の間中に位して、最も重要な位置を占める本島において、本観測は、いままで行われていなかった。そこで当場では、昭和31年10月坪田漁業協同組合に観測を依頼し、現在まで満4か年間貴重な資料を得ることができたので、今回水産開発事業にあたり、同島周辺漁場の科学的、総合的な利用を図るために考察を加えたのでその結果の一部を報告する。本報告に先立ち、ご協力とご援助を賜った坪田漁業協同組合に対し心から感謝の意を表する次第である。

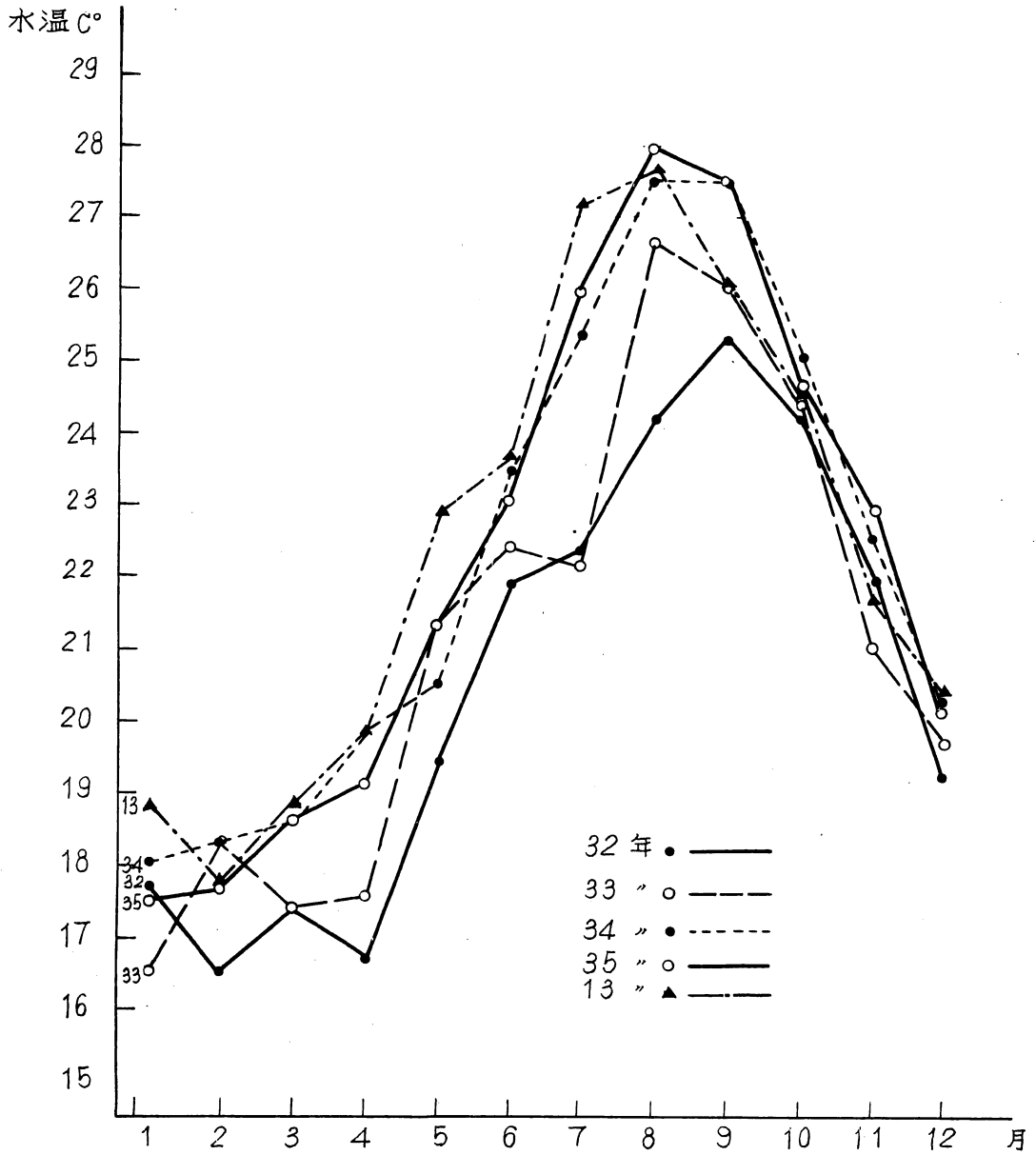
II 調査の方法

- 1) 観測地点 第1図参照
- 2) " 時刻 午前10時
- 3) " 器材 表面採水器(ゴム 2重製)、棒状寒暖計(1/10、検定済)
- 4) " 項目 風向・風力・天気・気温・一般漁況
- 5) 観測者 坪田漁業協同組合 田中昭三郎



第1図 定地観測地点図

Ⅲ 調査の結果



第2図 三宅島定置観測水温図

Ⅲ 調査の結果

三宅島坪田における昭和32～35年の4か年間の各月平均水温値を第1表・第2図に示した。これによつて大略の傾向を推察すると、昭和32年は最も低温で、2月および4月はそれぞれ16°C台を示しており、1月を除いていちじるしく低い。昭和33年は前年に比べて、やや高目となつてゐるが、2月を除いて水温はやはり全般的に低目となつてゐる。昭和34・35年は、前2か年に比べると、全体的に1～2°C高く、おおむね正常な状態を示している。この4か年のうちでは水温は年次の増加に比例して上昇傾向を示していることがわかる。そこで参考までに昭和13年の水温と比べてみると、この年は春～秋季にいちじるしく高温であつた。いずれにしても観測資料が少ないので詳しい考察はできないが、海況条件が漁況におよぼす影響を調べるため、とりあえず、春季代表的なハマトビウオ（ハルトビ）の關係について検討すると、三宅島における漁獲量の変せんは、第2表のとおりである。すなわち、水温が低い昭和32・33年は不漁であるが、水温が19°C前後（3～4月頃）になると、昭和34・35年のように好漁となる。つまり黒潮（高温、高かん）が三宅島に沿つて流れる場合は好漁という結果になると思われる。

第2表 ハルトビ年別漁獲量（千尾）

年次	32	33	34	35
漁獲量	82	136	485	600

調査担当者

大島分場 漁撈指導室

技師補 阿部 登

第I表 三宅島定地観測表(坪田)

年		32	33	34	35	平均水温	13
月	旬						
1	上	16.2	15.9	18.0	18.8	17.2	19.2
	中	18.4	17.2	18.0	17.7	17.8	18.6
	下	17.1	16.3	18.0	16.2	16.9	18.9
	平均	17.7	16.5	18.0	17.5	17.4	18.4
2	上	18.3	18.1	17.0	17.7	17.8	17.9
	中	15.8	18.2	18.4	18.0	17.6	17.1
	下	15.2	18.8	18.7	17.7	17.6	17.8
	平均	16.5	18.3	18.3	17.7	17.7	19.0
3	上	17.1	16.4	18.5	18.1	17.5	18.9
	中	17.6	17.0	18.7	18.6	18.0	20.7
	下	17.6	18.5	18.4	19.1	18.4	18.9
	平均	17.4	17.4	18.6	18.6	18.0	19.8
4	上	16.7	18.1	20.2	19.5	18.6	19.6
	中	16.6	17.0	19.5	18.2	17.8	20.2
	下	16.6	17.7	19.8	19.5	18.4	19.8
	平均	16.7	17.6	19.8	19.1	18.3	21.9
5	上	16.8	19.8	20.8	21.2	19.7	22.7
	中	19.0	22.1	20.8	21.1	20.8	23.7
	下	22.2	22.1	19.9	21.5	21.4	22.7
	平均	19.4	21.3	20.5	21.3	20.6	22.0
6	上	22.5	22.4	23.0	22.3	22.6	23.5
	中	22.5	21.8	23.2	22.6	22.5	25.2
	下	20.9	22.3	23.2	24.0	22.6	23.6
	平均	21.9	22.4	23.4	23.0	22.7	26.1
7	上	22.3	21.7	24.1	24.9	23.3	27.0
	中	22.3	22.0	24.8	25.9	23.8	28.3
	下	22.2	22.6	26.8	26.8	24.6	27.1
	平均	22.3	22.1	25.3	25.9	23.3	27.7
8	上	21.8	26.3	27.8	28.3	26.1	27.9
	中	24.7	26.2	27.2	27.3	26.4	27.3
	下	25.7	27.1	27.4	27.9	27.0	27.7
	平均	24.2	26.6	27.5	27.9	26.6	26.1
9	上	25.6	27.0	27.5	27.5	26.9	26.3
	中	25.3	25.7	27.8	27.8	26.7	25.6
	下	24.8	25.1	27.0	27.1	26.0	26.0
	平均	25.3	26.0	27.5	27.5	26.6	25.6
10	上	24.8	24.8	25.9	25.2	25.2	24.6
	中	24.6	24.3	24.6	24.5	24.5	23.5
	下	23.1	23.9	24.4	24.1	23.9	24.6
	平均	24.2	24.4	25.0	24.6	24.6	22.8
11	上	22.6	22.7	23.5	23.0	23.0	21.3
	中	21.7	21.4	22.0	22.9	22.0	20.9
	下	21.2	19.5	21.9	22.2	21.2	21.7
	平均	21.9	21.0	22.5	22.9	22.1	20.0
12	上	20.8	19.2	21.4	20.6	20.5	20.2
	中	19.2	20.1	20.4	20.0	19.9	21.2
	下	17.8	19.8	19.0	19.8	19.1	20.4
	平均	19.2	19.7	20.3	20.1	19.8	

V ひきなわ(曳繩)漁業指導

(和歌山県式)

ひきなわ(曳縄)漁業指導(和歌山県式)

I 目 的

三宅島の水産業は従来からテングサの採取業のみが盛んに行なわれ、近海に好漁場をひかえておりながら、魚類を対象とした漁業がほとんど行なわれていない。

近年、テングサの減産により漁民間においても他の漁業を併用し漁業収入の増加をはかるべく論議されている。

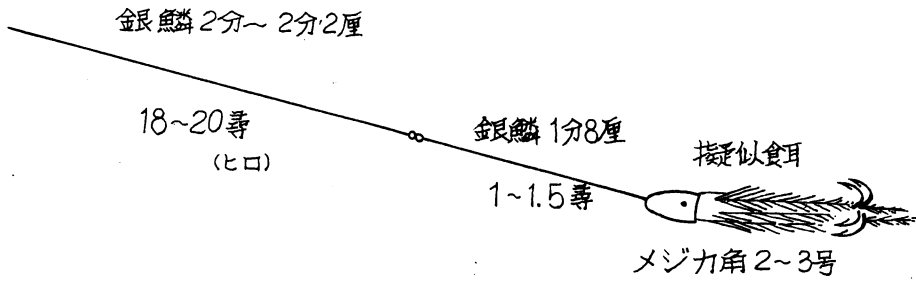
三宅島の漁船は、いずれも2～3トンの小型船であるため、これら漁船に最適な和歌山県式ひきなわ漁法を導入し、三宅島水産業の振興をはかるため、本指導を実施した。

II 方 法

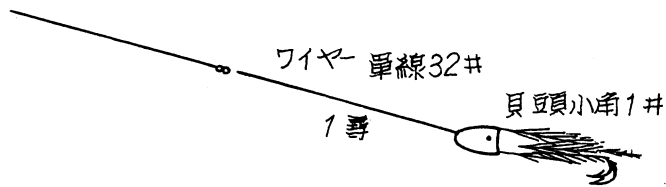
- 1 期 間 昭和35年10月25日～30日
- 2 場 所 三宅島坪田漁業協同組合
" 伊ヶ谷漁業協同組合
" 阿古漁業協同組合
- 3 講 師 和歌山県西牟婁郡 すさみ町在住 稲 葉 三 郎
- 4 使 用 船 長松丸(3.23トン 焼玉12馬力)

III 指 導 内 容

- 1 各種ひきなわ(曳縄)漁具漁法
 - 1) スマガツオひきなわ(曳縄)
 - a) 漁 法
魚体が1kgまでのときは、船の速力を3～5ノットにして、小型1本爪(ぎじえ)でシヤひき釣りする。
 - b) 漁 具



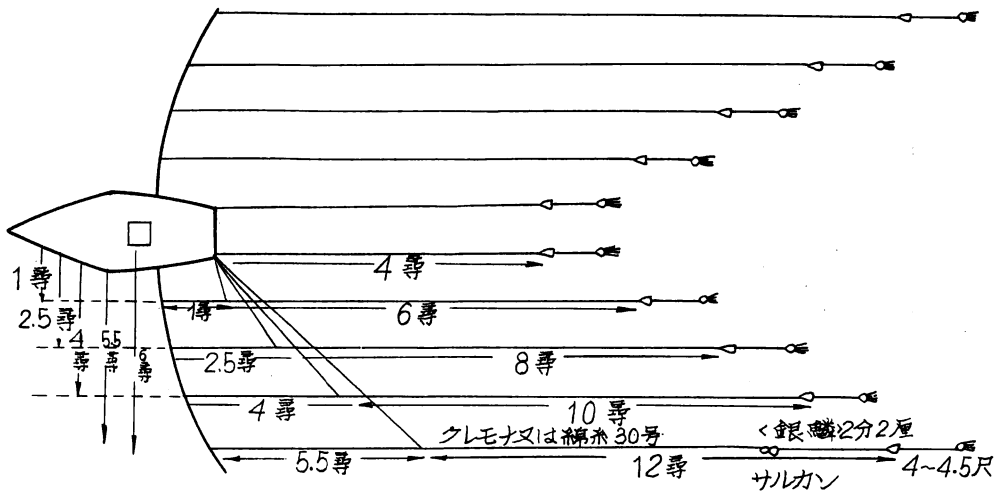
以上の他に船から竹(さお)を両(げん)に出しひきなわを4~5本出して操業することもある。この場合は、船の速力を7~8ノットとし、下図のような漁具を引く。



2) ソーダガツオひきなわ(曳縄)

a) 漁法

船の両舷より長さ6ヒロ位の竹(さお)を両(げん)に出し、下図のごとくひきなわは、10~12本用意する。この場合、ひきなわの長さは外側ほど長く、内側になるに



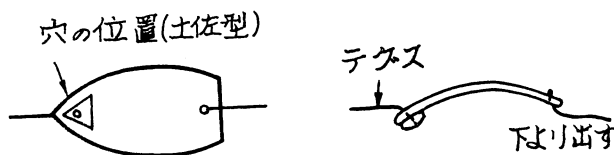
従つて2ヒロ位づつ短くなるように加減する。これは魚が食つたとき、他の魚具にかからずに船内に取り入れるためと、船が旋回する場合、漁具と漁具とがからまないためである。

各(なわ)には小型潜航板を使用する。

ロ) 漁具

イ 潜航板(和歌山型または土佐型)

潜航板の穴はなるべく前に開けた方がよい。後に開けると潜航板が深くもぐり、魚が食つた場合、板が浮上するのに時間がかかるので能率的でない。



ロ (ぎじえ)

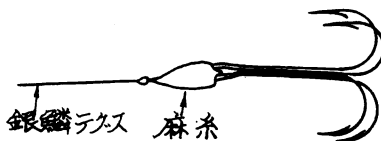
(ぎじえ)は、メジカ角井、または貝頭(ぎじえ)がよい。貝頭のばあい、カツオ類は白い毛を好むので、白い毛を多くする。白い毛は毛のうちでも1番弱いのでゴマ毛を2~3割入れて白い毛を保護する。毛の数は12~13枚が適当である。

和歌山県近海では潮の悪い時、水中では品物が大きく見えるため、赤毛を2~3割入れるが、伊豆七島では、透明度が高いためその必要はない。

3) カツオ・メジひきなほ(曳縄)

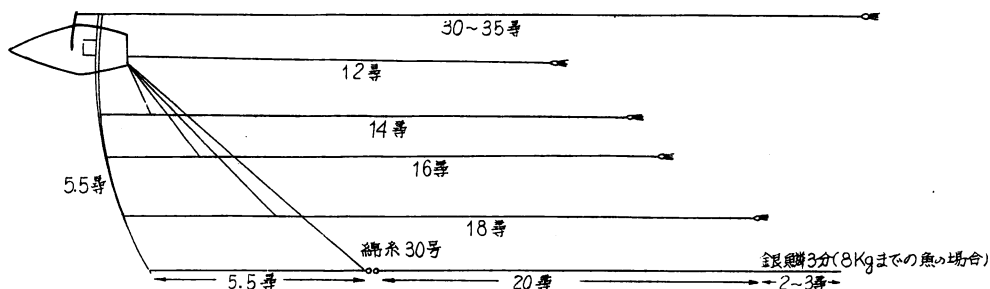
① 上ひき

カツオの場合、(ぎじえ)に食付き釣針に魚がかかつたとき口を開く性質があり、はずれやすいので、釣針を図のように2本合せにし、船の速力は、なるべく早く(7~8ノット)する。魚は船の速力が速いほど、口の奥にかかるものであるが、あまり奥にかかつて釣針をはずしにこまるときは、釣針の「返し」をベンチで取ると、はずしやすくなる。メジは4kg以上になると上ひきか、シヤひき、または(え)ひきがよい。



a) 漁法

ひきなわは、10～11本の場合は、船の中央に竹を立てて引く。



b) 漁具

貝頭の大きさは、魚がシラス・アミを食っている場合とか(なぎ)の場合には、小型のものを使用するが、サンマ・イカ・ムロ等を食っている場合とか、または、風波の強い場合は大型のものを使用する。

エバはシイラの皮が良いが、カツオの場合は腹の白い方を好む。メジは背の黒い方がよい。毛の数は角の周りを1廻りするていどで十分であるが、カツオは白毛の多い方がよい。

釣針は、カツオで1.5～2Kgの場合は6号針を2本合せにし、3Kg以上の場合には4号針を2本合せにずる。メジは2本合せにする必要はない。

② 下ひき(潜航板使用)

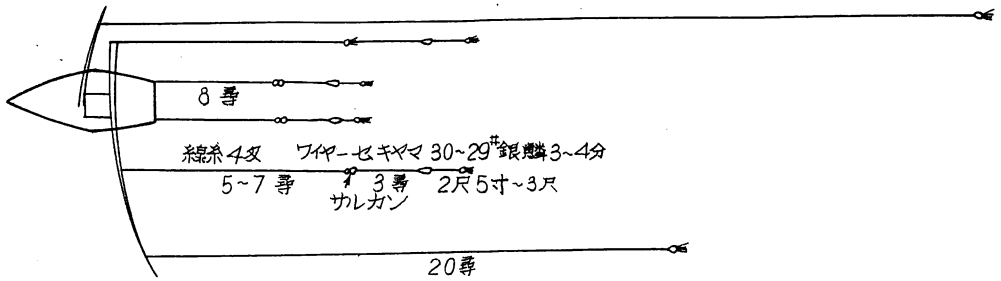
魚体が1.5～3kgで風波があまり強くないときは、この漁法で操業する。

3) 漁法

潜航板を使用するばあい、船の速力は、あまり速くせず3ノット位が適当である。潜航板は普通4本でひくが、この場合でも上ひきの漁具を併用して操業する。上ひきと下ひきの釣針に魚が同時に食つた場合は上ひきの魚は、そのままオトリとしておき、下ひきの魚を取り込む。

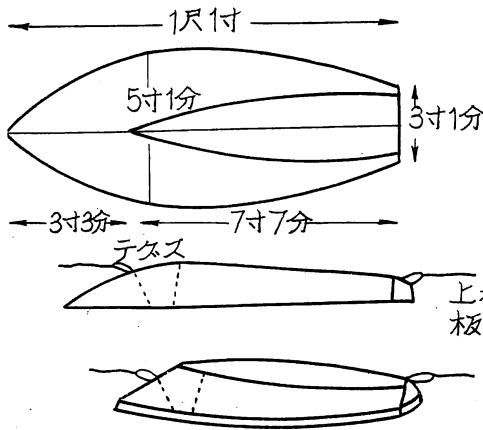
どちらかに1尾食つたときは、すぐ取り込まず次の魚が食うまでオトリとしてひいて

いる。



b) 漁具

潜航板の材料は(きり)が一番よい。塗料はビニール塗料がよく色は水色か赤色がよい。



(ぎじえ) は潜航板の後に付ける、ホロは、なるべ

く小さいほど(2寸6分)よく魚の種類を問わず毛は白の多い方がよい。

③ シヤひき

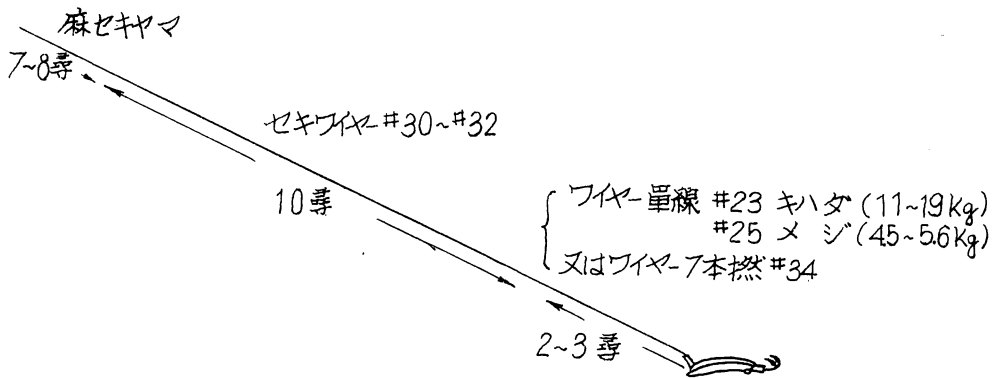
シヤひきはメジ・ダルマ・キハダ等 1.5~1.5kgの魚に最適の漁具である。

a) 漁法

この漁法は人間がシヤひくので非常に重労働である。そのため最近では上ひきで漁場周辺を巡回し、魚が上ひき漁具に食つてから、この漁法で操業する。船の速力は魚類を問わず遅いほど良い。シヤひき漁具は普通2道具用意し、シヤひきで操業を始めたらず、1道具に魚を食わせ、それをオトリとして次の道具で操業し、前のオトリの魚が死んだら現在の道具に食っている魚をオトリとし、前の魚を取り込んで、その道具でオトリが

死ぬまで操業し、これを繰返し操業する。漁具の長さは4kgのメジで20(ヒロ)位延ばせばよい。

b) 漁具



シヤひきに使用する(なわ)は弾力のないものを使用する。これは道具を理想的に踊らすためである。

④ マグロひきなほ(曳縄)

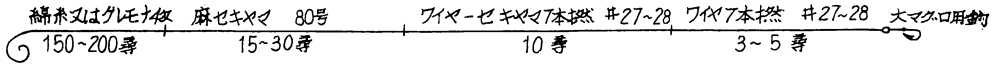
38~190kgの各種マグロ類を釣る漁法である。

a) 漁法

ひきなわは2~3本で45(ヒロ)位延ばす。魚が食つたらシツテを150(ヒロ)延ばし後止める。この場合、魚は(なわ)のある限り深く潜つていくが、150(ヒロ)延ばせば、後は止めても(なわ)の切れる心配はない。その後、シツテを(かじ)に持つて行き船をスロー(1~1.5ノット)で魚の大きさに応じて10~30分ひけば大抵の魚は弱つてしまい容易に取り揚げられる。魚が船の近くまできたときには(もり)を打つた方がよい。

b) 漁具

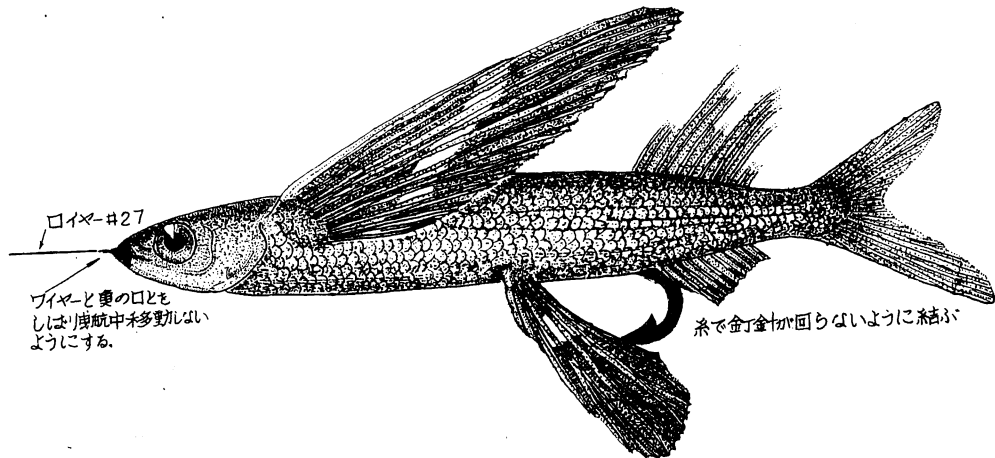
シツテは綿糸で(なわ)はクレモナの太さ4刈ロープを150~200(ヒロ)用意する。



餌料はサンマ・イカ等でひくこともあるが、トビ(375g)が一番良い。トビは生餌が一番良いが塩蔵したものでもよい。

c) (えさ)の装着法

ワイヤーを肛門から通して口から出す。釣針の半分以上が図のように体の中にかくれるようにする。



2 (ぎじえ)の種類および作成法

1) 頭 角(ホ ロ)

従来から各種のホロが考案され使用されてきたが、現在、和歌山県地方ではほとんど貝頭が使われている。

貝頭にもアワビ・アコヤ貝・ヒロセ貝等があるが、白(チヨウ)貝が一番よい。今までで一番良いと思われたのは(シカ)の角であるが入手が困難なので一般に貝頭を使用している。

2) 毛

白・ゴマ・赤(心黒)の3種あるが、これを魚種に合わせて適当に混合して(ぎじえ)を作る。毛の数はホロの大きさにより異なるが、毛の芯がホロを一周するだけ付ければ充分で、普通12~15本である。

毛の長さは、ホロの大きさにより長短適当にするが、1つの(ぎじえ)につける長さは一定にせず、多少長短のあつた方がよい。

3) エ バ

フグ・シイラ等があるが一番よいのはボラ・スズキの皮である。しかし、シイラが一番多く使われているので、その作成法を説明する。

エバに使うシイラは、750g以下のものが良い。先ず漁場で適当なシイラを釣り上げたならば、すぐ首を切つて殺し、日陰において持帰る。入港後、皮をはぎ、皮の油を取るため米のとぎ汁の中に8時間(つ)け、その後ガラスまたは板等に張り付けて乾燥する。乾燥したエバは、その年に使用するとまだ皮が柔かいため、切れやすく、また操業中からまりやすいので翌年まで保存した方がよい。保存法は薄い柔かい紙で包み雑誌等にはさんで置くと油も完全にとれる。

エバは毛の周囲に何重にも巻かず一重の方が良い。シイラ以外の魚でエバを作るときは(うろこ)をはがす。エバは薄いものほど良い。

4) 釣 針

釣針には各種大きさがあるが、ホロの大きさに合わせて撰定する。種類も手打ちと電気打ち(機械打ち)の2種類あるが強さに大した差がないので、普通は電気打ちのものを使用している。カツオの場合は2個の針を背中合せとして使う。また、釣針は一種の(ぎじえ)にもなるので、必ずサビのない新しいものを使用することである。

5) トビウオの保存法

トビウオは300~375gのものが最適である。トビウオを入手したら腹部を切開

せず、原型のまま塩水の中に2時間ほど(つ)ける。この場合、塩水の濃度はトビを入れたとき魚体が半分浮上する位にする。塩水に(つ)け2時間すれば魚体は完全に固定してしまいますから、その後、食塩の中にうめ漁期になるまで保存する。

IV 成 果

三宅島のひきなわは小規模ながら行なわれてきたが、これは収入の目的と言うよりは漁閑期における遊漁に過ぎなかつた。このため漁獲量も漁協によつては皆無に等しい状態であつた。ところが近年、主要収入源であるテングサの減産、あるいは春トビの不況から漁家生活の安定は期待できなくなつた。

ひきなわ漁業の先進地である和歌山、大分県の小型漁船が三宅島近海まで出漁し、カツオ・メジ類の好漁がなされた。

当场でも、このひきなわ漁法の導入について計画してきたが、今回、和歌山県に講師の派遣を依頼し、現地において陸上講習および実地講習(海上講習)を行なつた。稲葉講師は自己の30年と言う永年の経験を活かし、対象魚類による漁具の作製と漁法について細部にわたり指導され、また、海上実習ではわずか1時間にメジ20尾・カツオ10尾の漁獲を示す好成绩を収めた。最近では、このひきなわ専業船として現地で20隻が新造され、また千葉方面から2～3トンの小型船を買入れるような状態で、三宅島の水産業もテングサ採取業から沖合出漁の

表 1 年別、単協別、ひきなわ水揚量 (Kg)

	神 着			伊 ヶ 谷			阿 古			坪 田		
	33	34	35	33	34	35	33	34	35	33	34	35
1	394			30							477	1,247
2				30							299	
3	619			53						143		48
4	139											
5			260									
6										334		
7								400				
8										355		
9								600		71	281	591
10										920	107	1,153
11										111	29	2,292
12									271	30	1,144	747
計	1,152		260	83				1,000	271	1,964	2,337	6,078

気運が高まっている。

表1は昭和33年から昭和35年までのひきなわによる水揚量であるが、三宅島の中心漁港である坪田では33年に1,964Kg・34年、2,337Kgであつたが本指導を行なつた35年には6,078Kgで34年の約2.5倍と飛躍的に増大し好成果をあげた。

表2 魚種別、月別水揚量(35年)

魚種名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
メジ	1,233		48						187	219	1,007	263	2,957
カツオ					260				88	859	1,170	624	3,001
ウズワ									36	46	75		157
サワラ									196	29	40	35	300
ヒラマサ	14												14
青ブリ												17	17
赤ブリ												12	12
シイラ									84				84
その他												67	67
計	1,247		48		260				591	1,153	2,292	1,018	6,609

表2は、昭和35年におけるひきなわの魚種別、月別水揚量であるが漁期は9月頃から始まり、秋期から冬期にかけて行なわれている。

また、魚種には、カツオ・メジ類がその主なものであるが、カツオ・3,001Kg・メジ2,957Kgとなつている。

Ⅴ 結 語

以上、昨年10月に実施した和歌山県式ひきなわについて、その内容および成果の概要を述べたが昨年はこの漁法を取り入れた初年度にもあたるので水揚量も一応数字的には、34年の約2.5倍(坪田)を示してはいるものの水揚量としてはまだ少い。

しかし最近、この漁法についての漁民の熱意から考慮して本年度、或いは来年度と水揚量も年々増加し、三宅島におけるテングサ漁業とともに益々盛んになることが期待される。

指導担当者

講 師 稲 葉 三 郎
大島分場 漁撈指導室
技 師 今 井 丈 夫

昭和 36 年度

規格 第 2 類

登録第 2705 号

東京都水産試験場研究要報 30

三宅島水産開発事業報告

印刷月日 昭和 37 年 2 月 20 日

発行月日 昭和 37 年 2 月 26 日

発行所 東京都水産試験場
東京都大田区糀谷町5-1346

印刷所 桜井広濟堂
東京都港区芝三田四国町2番地17号
電話三田(451)(代表) 8301-5番